

## 宮城県中部地区マアナゴ資源管理協定

協定発効日 令和6年3月29日

### (目的)

第1条 マアナゴは、宮城県中部地区を代表する魚種のひとつであり、沿岸の小型漁船漁業において重要な種である。マアナゴの産卵場は日本の南方海域とされ、仔魚期に日本各地の沿岸に来遊するという特異な生態であり、再生産等についてはいまだ不明な点が多い。今後もマアナゴ資源の持続的な利用を図るためには、宮城県地先に来遊した資源の適切な管理を徹底するとともに、今後得られる科学的知見に従って適宜管理方策を見直すことが重要である。

本協定は、宮城県沿岸海域において漁獲される水産資源の管理に関して、当該水産資源の資源管理の方向性の達成を目的として、本協定に参加している者（以下「参加者」という。）により、当該水産資源に関して自主的な資源管理の目標を定め、当該資源管理の目標の達成のために具体的な取組を行うことで、もって当該水産資源の保存及び管理を図るものである。

### (本協定の対象となる水域、水産資源の種類及び漁業の種類)

第2条 本協定の対象となる水域は、仙台湾（金華山頂上を通る緯線以南から宮城県と福島県の県境真東の線に至る宮城県沖合海面及び金華山を通る緯線以北の石巻湾）

本協定の対象となる魚種は、マアナゴとする。

本協定の対象となる漁業種類は、かご、はも胴、もしくはその他の漁具を用いたせん漁業とする。

### (資源管理の目標)

第3条 本協定における資源管理の目標は、次のとおりとする。

宮城県資源管理方針別紙第3－6に定める資源管理の方向性

### (資源管理の目標の達成のための具体的な取組)

第4条 前条の資源管理の目標の達成のための具体的な取組は、次の各号に掲げるところにより行うものとする。

#### 一 操業日数制限

各漁業者において、年間累計180日以上を休漁日を設ける。

2 前項の取組に加え、全長30センチ未満の小型魚の再放流を行うとともに、操業日誌等の記録を通して操業条件や漁獲実態の把握に努める。また、資源状況に応じて、漁法ごとの操業期間制限、当該漁期の総漁獲量制限、漁船ごとの1日の漁獲量制限等についても検討・実施し、資源の回復・維持を図るよう努めることとする。

#### **（取組の履行確認に関する事項）**

第5条 前条の具体的な取組の着実な実施を担保するため、全ての参加者に対して、少なくとも年1回、前条第1項の具体的な取組の履行確認を行うこととする。

2 全ての参加者は、前項の履行確認に協力するものとする。

3 第1項の履行確認は、宮城県に設置された資源管理協議会において行うこととする。

4 第1項の履行確認においては、各魚市場の水揚記録または漁協の仕切伝票により確認する。

#### **（漁獲量等の漁獲関連情報の報告）**

第6条 全ての参加者は、漁業法第90条第1項の規定に基づき、漁獲量及び漁獲努力量、資源管理の状況、漁業生産の実績等を宮城県知事に報告するものとする。

2 全ての参加者は、協定の実施のために必要とされる履行確認や効果の検証等の情報を積極的に宮城県、資源管理協議会に報告するものとする。

#### **（取組の効果の検証に関する事項）**

第7条 第4条の具体的な取組の対象魚種の保存及び管理に対する有効性を確認するため、本協定の有効期間の2分の1を経過した時及び当該有効期間の終了時に、本協定の取組の効果の検証を行うこととする。

2 前項の規定にかかわらず、対象魚種の資源評価が行われた結果、資源管理基本方針及び宮城県資源管理方針において重大な変更があった場合には、当該変更があった日から1年以内に検証を行うこととする。

3 前2項の検証は、直近の資源評価の結果及び前条で報告された情報その他参考となる科学的知見に基づき、宮城県に設置された資源管理協議会において行うこととする。

#### **（協定に違反した場合の措置）**

第8条 参加者による資源管理の目標の達成のための具体的な取組、当該具体的な取組の履行確認への協力その他の本協定及び本協定の規定に基づく要領、規約等の内容に対する違反の疑義が認められた場合には、当該違反の疑義の内容について宮城県に設置された資源管理協議会に報告し、調査及び協議することとする。

2 前項の調査及び協議の結果、違反したことが明らかになり、かつ、その違反の程度が重大なものであった場合には、当該参加者の本協定の遵守が要件となる国及び宮城県からの補助を受けることができないこととする。この場合において、当該補助を受けることができない期間は、違反をした年度とする。

#### **（協定への参加及び協定からの脱退）**

第9条 全参加者の代理権を有する者（以下「協定代表者」という。）は、本協定に参加しようとする者に対して、参加届出書により参加する旨の届出を行わせるものとする。

この場合において、本協定への参加は、協定代表者が当該参加届出書を受理した時点で行われるものとする。

2 参加者の住所又は氏名若しくは名称に変更が生じたときは、当該参加者は、協定代表者に対して、変更届出書により当該変更の内容の届出を行うものとする。

3 参加者が本協定を脱退しようとする場合には、当該参加者は、協定代表者に対して、脱退届出書により当該協定からの脱退を申し出るものとする。この場合において、本協定からの脱退は、協定代表者が当該脱退届出書を受理した時点で行われるものとする。

#### **（協定の有効期間）**

第10条 本協定の有効期間は、協定締結の日から5年間（令和6年3月29日から令和11年3月28日まで）とする。

#### **（あつせんすべきことを求める場合の手続き）**

第11条 漁業法第126条第1項の規定に基づき宮城県知事にあつせんすべきことを求める議事は、参加者の3分の2以上の多数で決する。

#### **（その他）**

第12条 本協定に定めのない事項については、参加者間で協議し、決定するものとする。

#### **附 則**

本協定は、令和6年3月29日から施行する。

#### **（本協定の参加者）**

別紙名簿のとおり

(以上)